

どんな未来が待ってる？

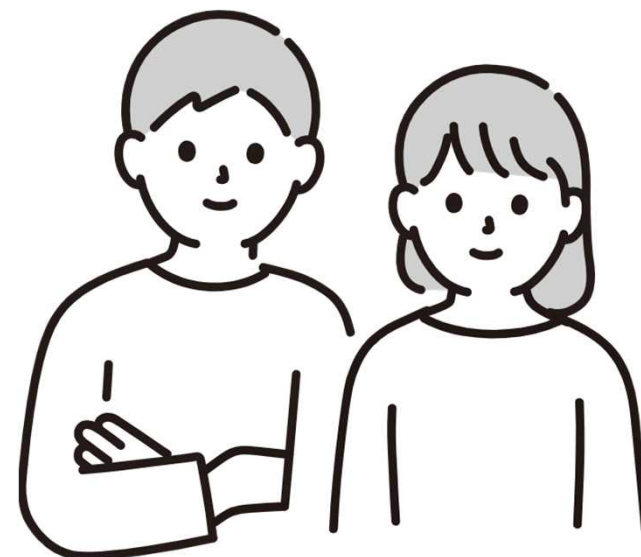
これからどうしたらいい？

一緒にかんがえよう

- 1 「自立（じりつ）」ってなに？
- 2 先輩へのアンケート結果を紹介
- 3 いろんなサポートを紹介

165人
の先輩の声

2018～2022年の5年間に
施設等を退所した先輩



「自立（じりつ）」ってなに？

「自立（じりつ）」と聞くと、どのようなイメージをもちますか？

みなさんは、これから施設や里親家庭を離れ、進学や就職をして「自立」して生活していきます。

辞書には「他の援助や支配を受けず、自分の力で判断したり身を立てたりすること。」とかいています。

でも、わたしたちは、「自立」を「自分一人で生きていくこと」だとは考えていません。

頼る先を増やして、必要なときに「助けて欲しい」といえる勇気をもつことが自立につながります。

施設や里親家庭を離れても、みなさんは一人ではありません。

力になりたいと考える多くの支えてくれる人たちがいます。

誰もが困るときがあります。そういうときは、SOSを出して相談してください。

頼るときは頼れるようになり、最終的に自分でできるようになることができればそれでいいのです。

そして、権利の主体はみなさんです。自分のことは自分で決めることができます。

みなさんの意思が最大限に尊重されるかたちで、施設や里親家庭で暮らしているときから、

そして、離れてからも必要なサポートが受けられるよう、いっしょに歩いていきましょう。

先輩へのアンケート結果を紹介

ここでは、先輩に聞いた、アンケートの結果を紹介します。

いまは、18歳で高校を卒業すると施設や里親家庭から離れる先輩たちが多いです。

社会に出ると、いろいろと困りごとにぶつかって、大変だよと聞いたことがあるかもしれません。

そこで、先輩たちに、施設や里親家庭を離れたあとの生活の様子や困り事、

こんなサポートがあったらいいな、施設や里親家庭にいる間にこんなサポートが受けなかったな、

などの声を聞くために、アンケートを実施しました。

アンケートの結果は、アンケートに答えてくれた先輩たちのサポートを考えると、

そして、これから施設や里親家庭を巣立つみなさん後輩たちの自立に向けたサポートや

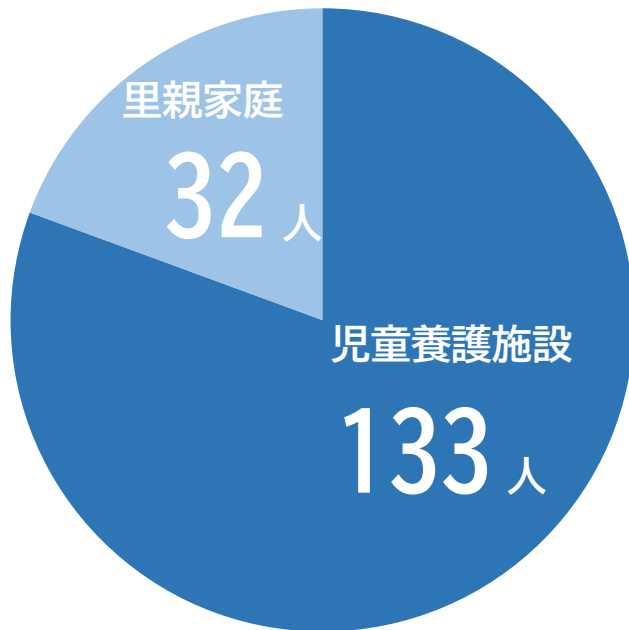
自立した後のサポートを考えるための参考にさせていただきました。

アンケート結果をみて感じたこと、必要だと思ったサポートなどを周りの大人と話してみてください。

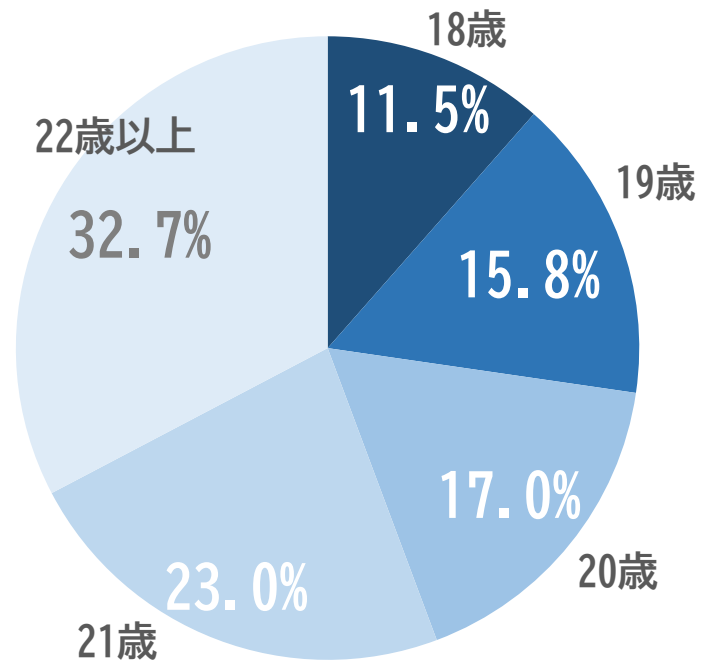
① どんな先輩たち？

- ✓ 回答してくれた165人の先輩のうち133人が児童養護施設出身の先輩です。
- ✓ 年齢は、22歳以上の先輩が多いですが、いろいろな年齢の先輩が回答してくれました。
- ✓ 性別は、男女比ほぼ同じくらいです。

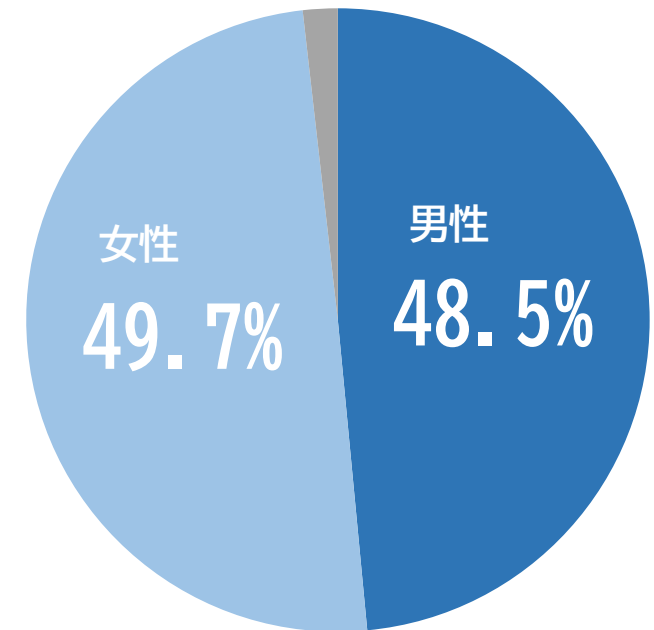
施設と里親家庭の先輩の人数



年齢 (165人)

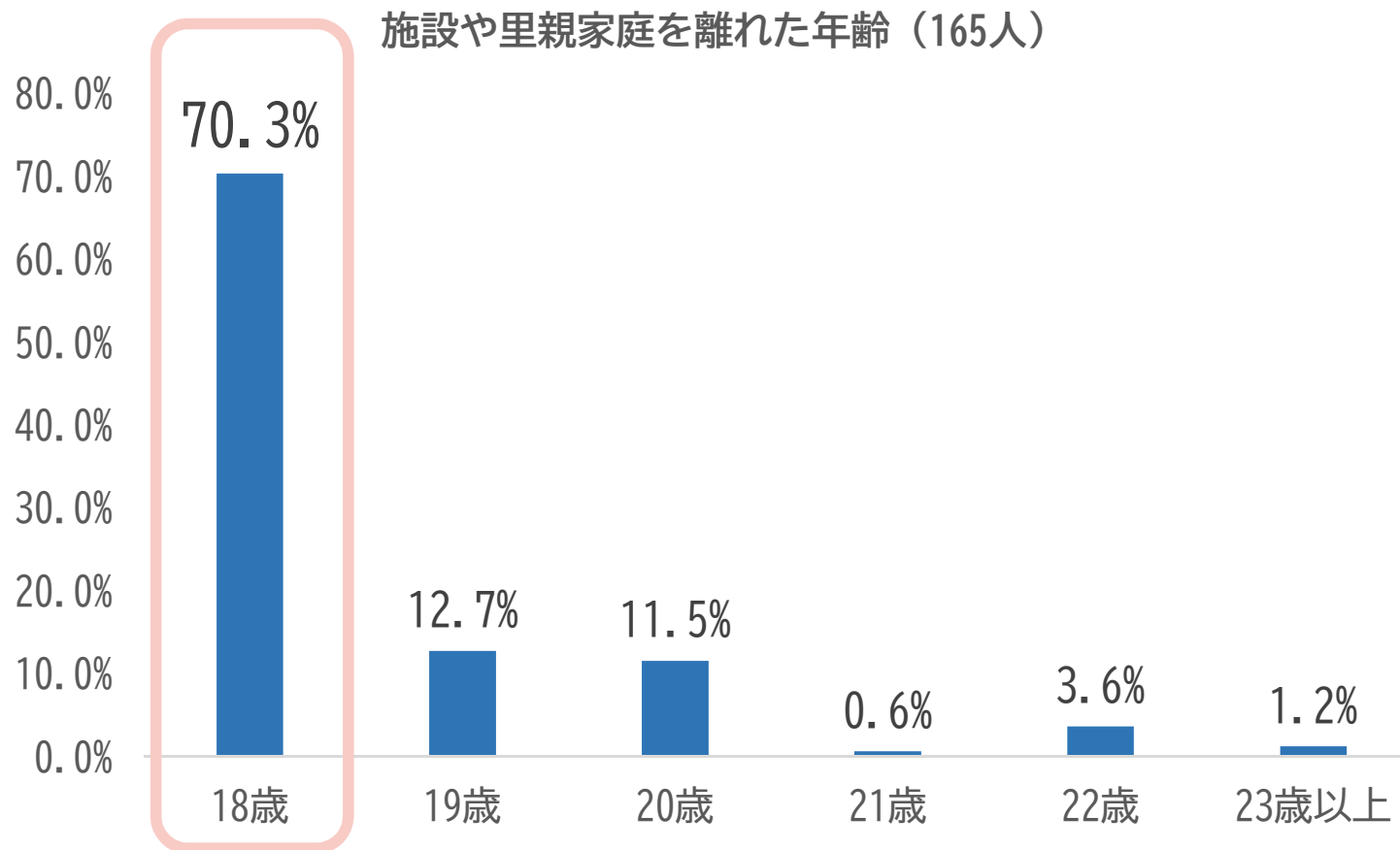


性別 (165人)



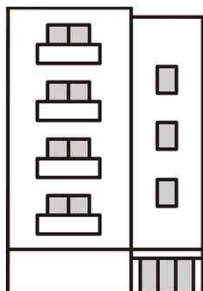
②何歳で施設や里親家庭を離れた？

- ✓ 施設や里親家庭を離れた年齢は18歳が多く約7割になっています。
- ✓ 「措置延長」ができる20歳までで、ほとんどの先輩は施設や里親家庭を離れています。

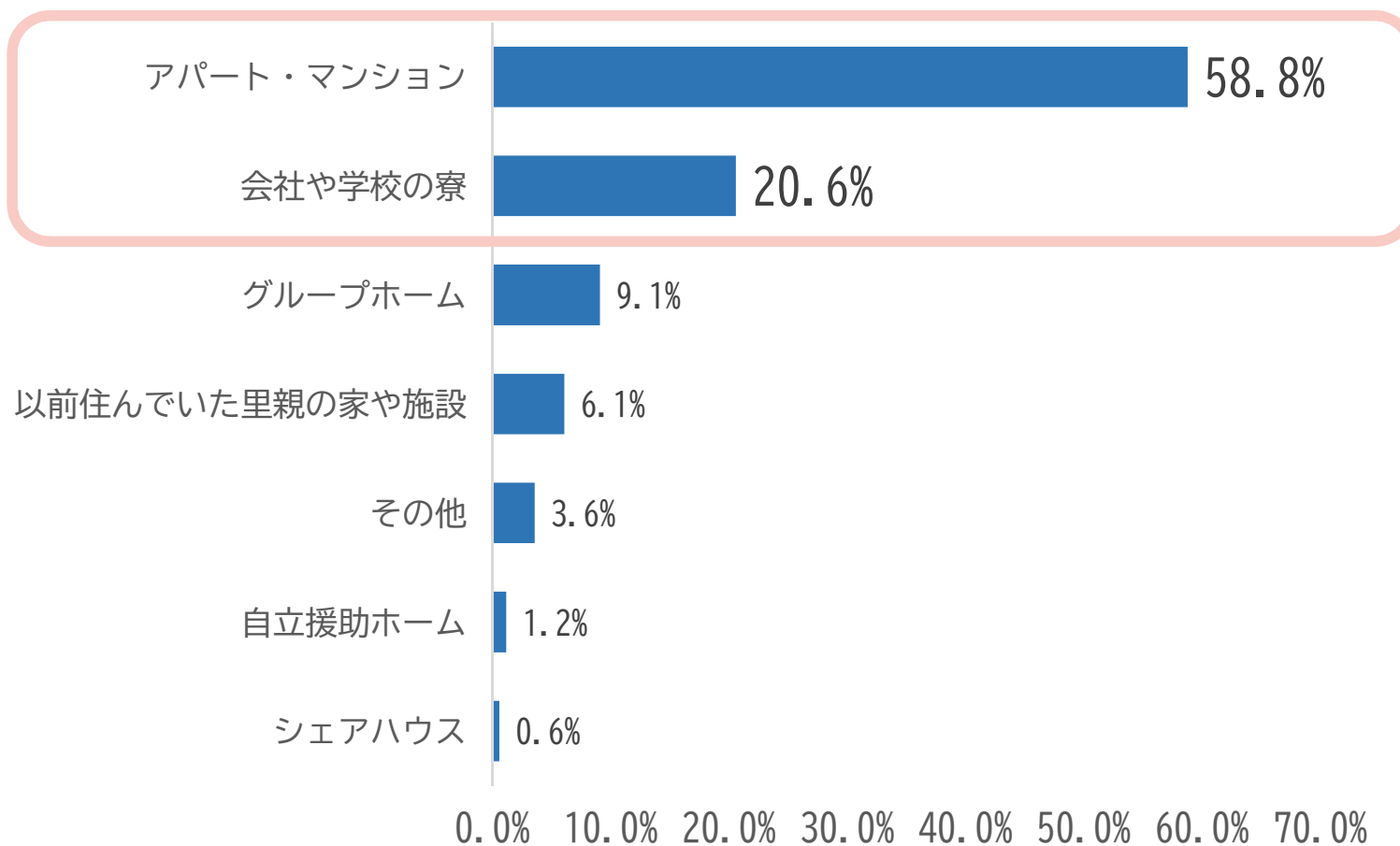


③住まいの種類は？

✓ アパート・マンションが約6割と一番多く、次に会社や学校の寮が多くなっています。



いまの住まいの種類 (165人)

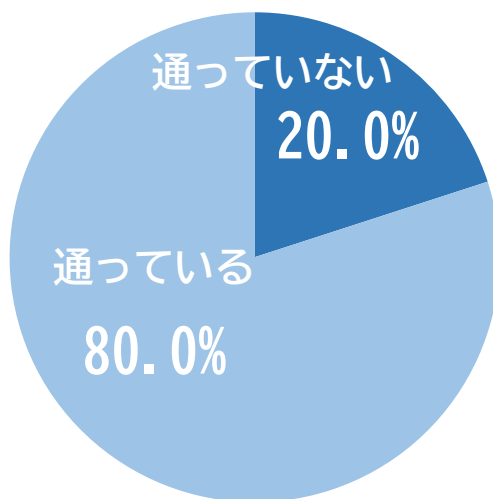
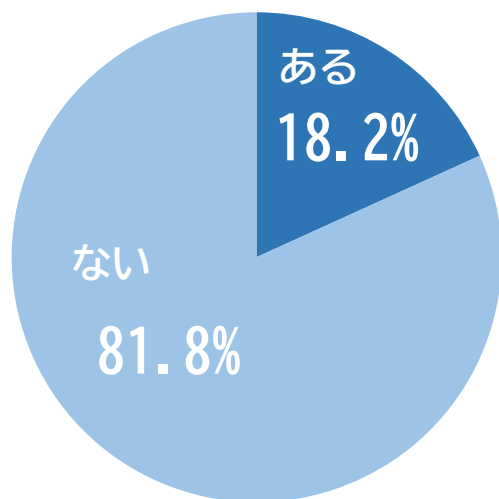


④いまの健康状態は？

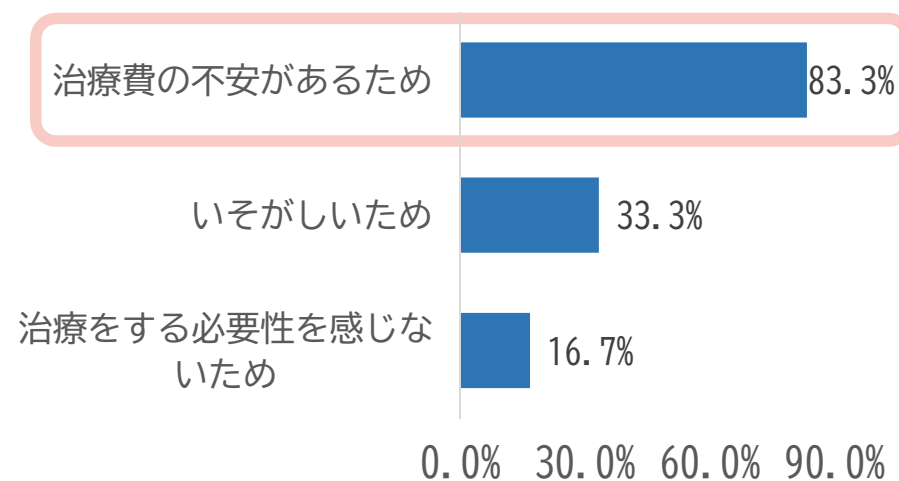
- ✓ アンケートに答えてくれた時点で治療が必要な病気があるが約2割でした。
- ✓ 病院に通っていない先輩も2割いて、治療費の不安が一番の理由でした。



治療しなければならない病気（165人） 病院に通っているか（30人）



治療をしていない理由（6人）

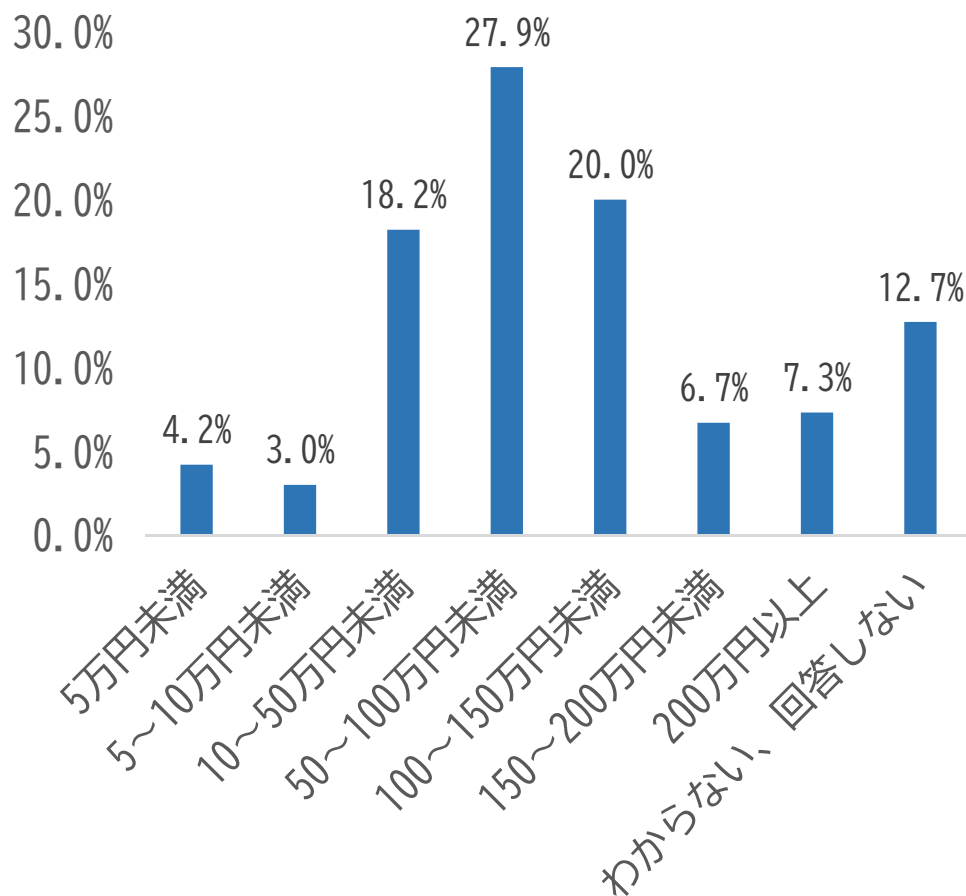


⑤ お金の管理はどうだった？

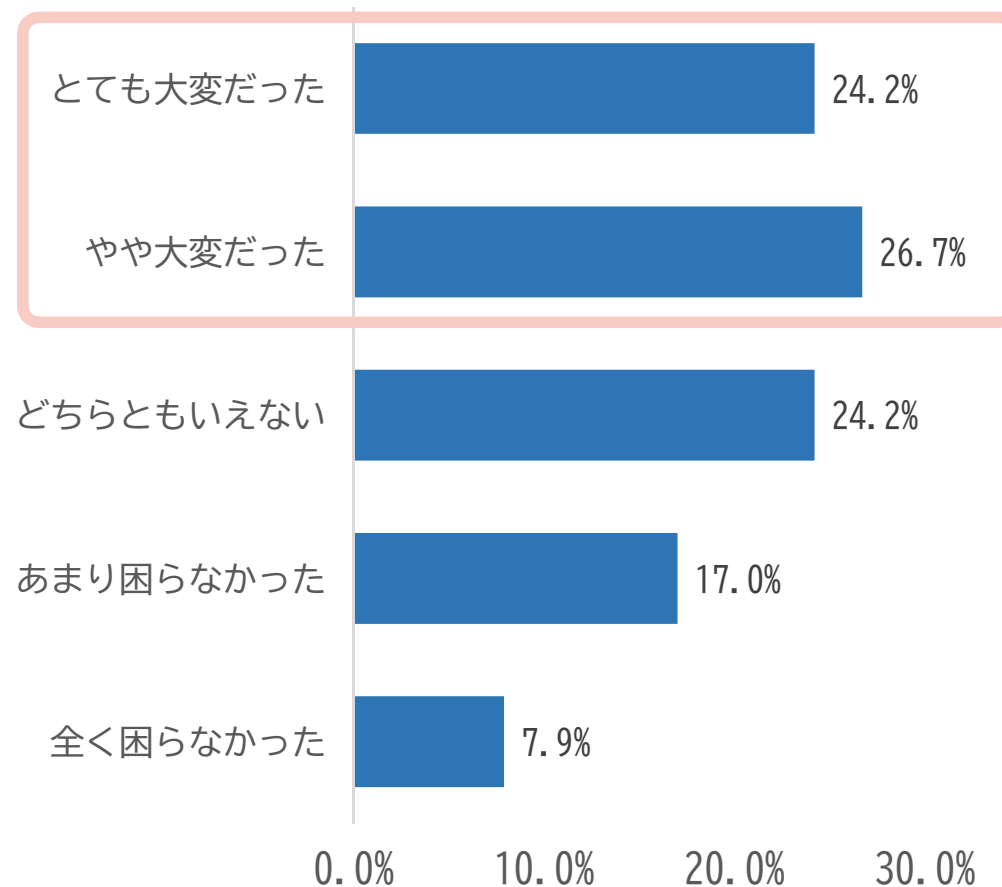
- ✓ 施設や里親家庭を離れるときの貯金の金額はさまざまです。
- ✓ 1人でお金を管理することは、約半数が大変だったようです。



貯金 (165人)

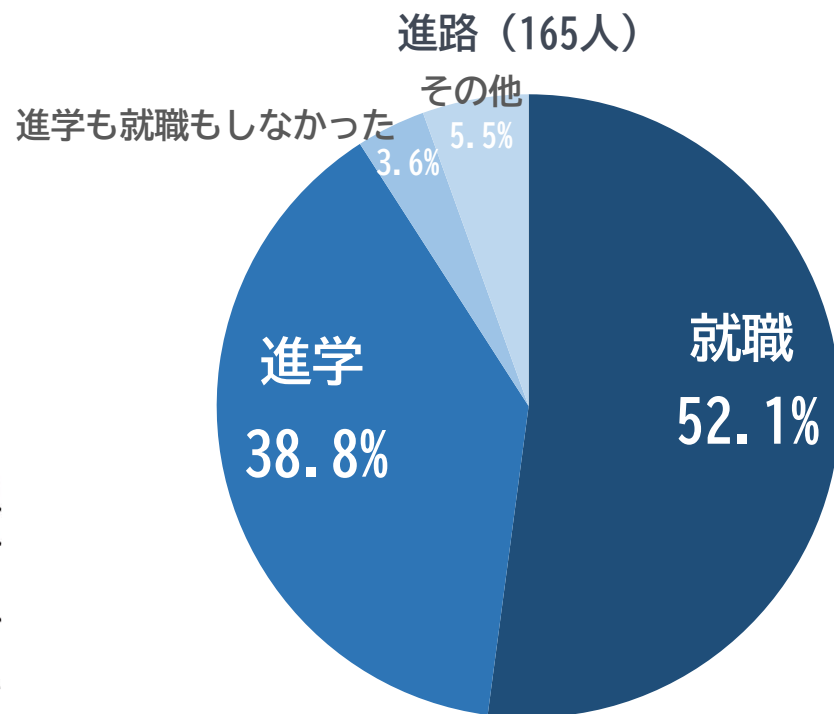


1人でお金を管理すること (165人)



⑥先輩たちはどんな進路に進んだ？

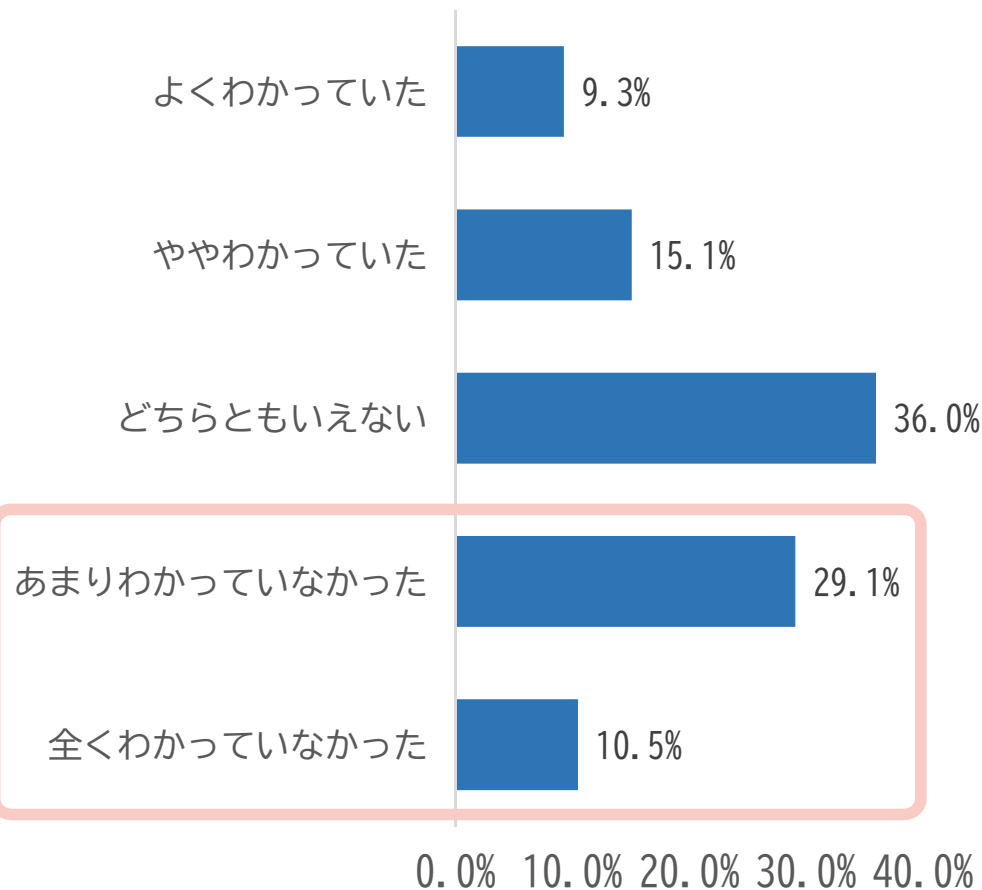
- ✓ 施設や里親家庭を離れた後、半分が就職、4割が進学を選んでいます。



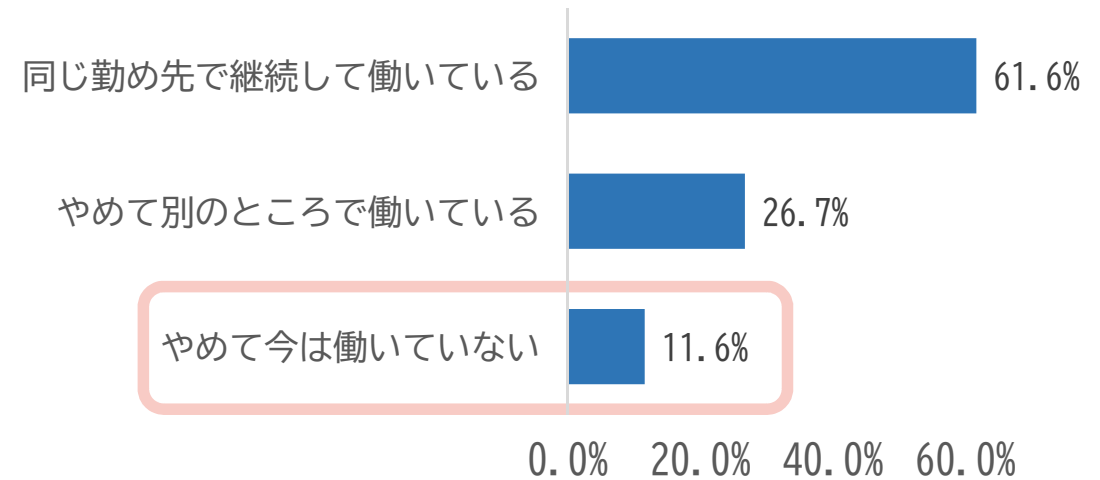
⑦就職した先輩の状況は？

- ✓ どのような仕事が自分に向いているか、わかっていなかった先輩の方が多くなっています。
- ✓ 仕事を転々としたり、ストレスを感じてやめてしまったままの先輩もいます。

自分に向いている仕事（87人）



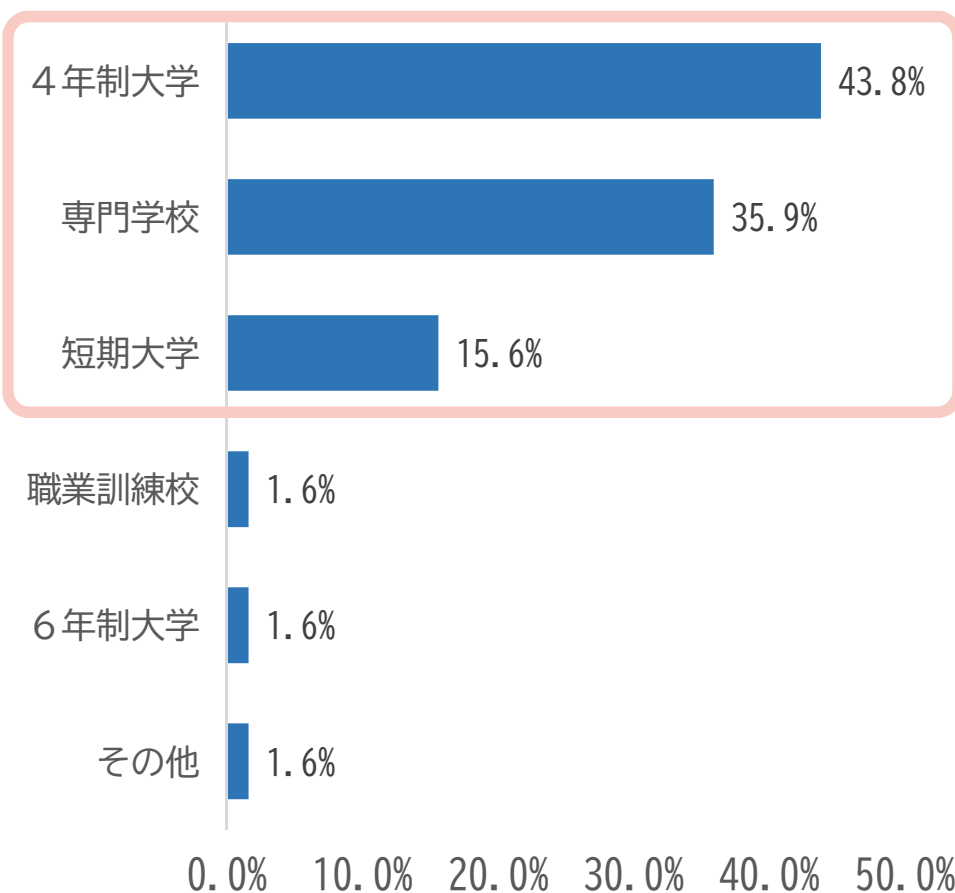
就職した後の状況（86人）



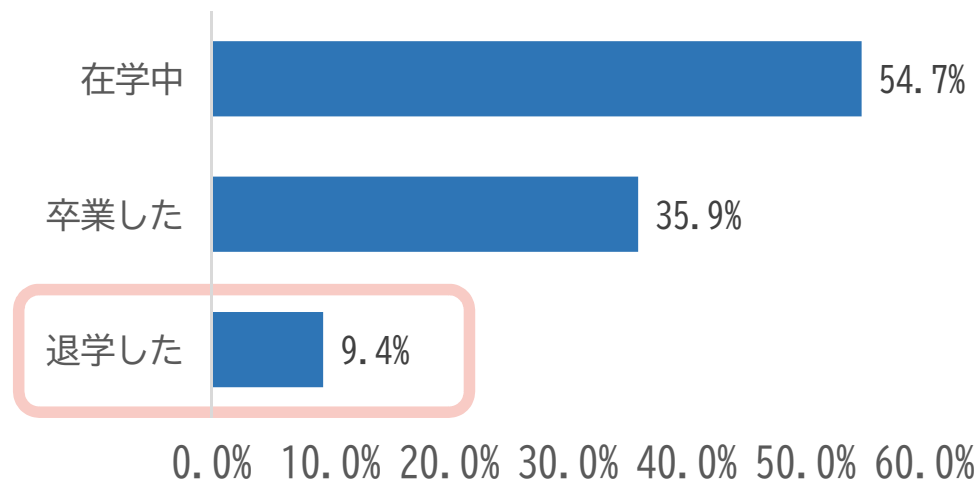
⑧大学などへ進学した先輩の状況は？

- ✓ 大学等へ進学した先輩は、4年制大学が一番多く、その次に専門学校になっています。
- ✓ 授業の内容・レベルが合わなかったなどの理由で、退学した先輩が1割います。

学校の種類 (64人)



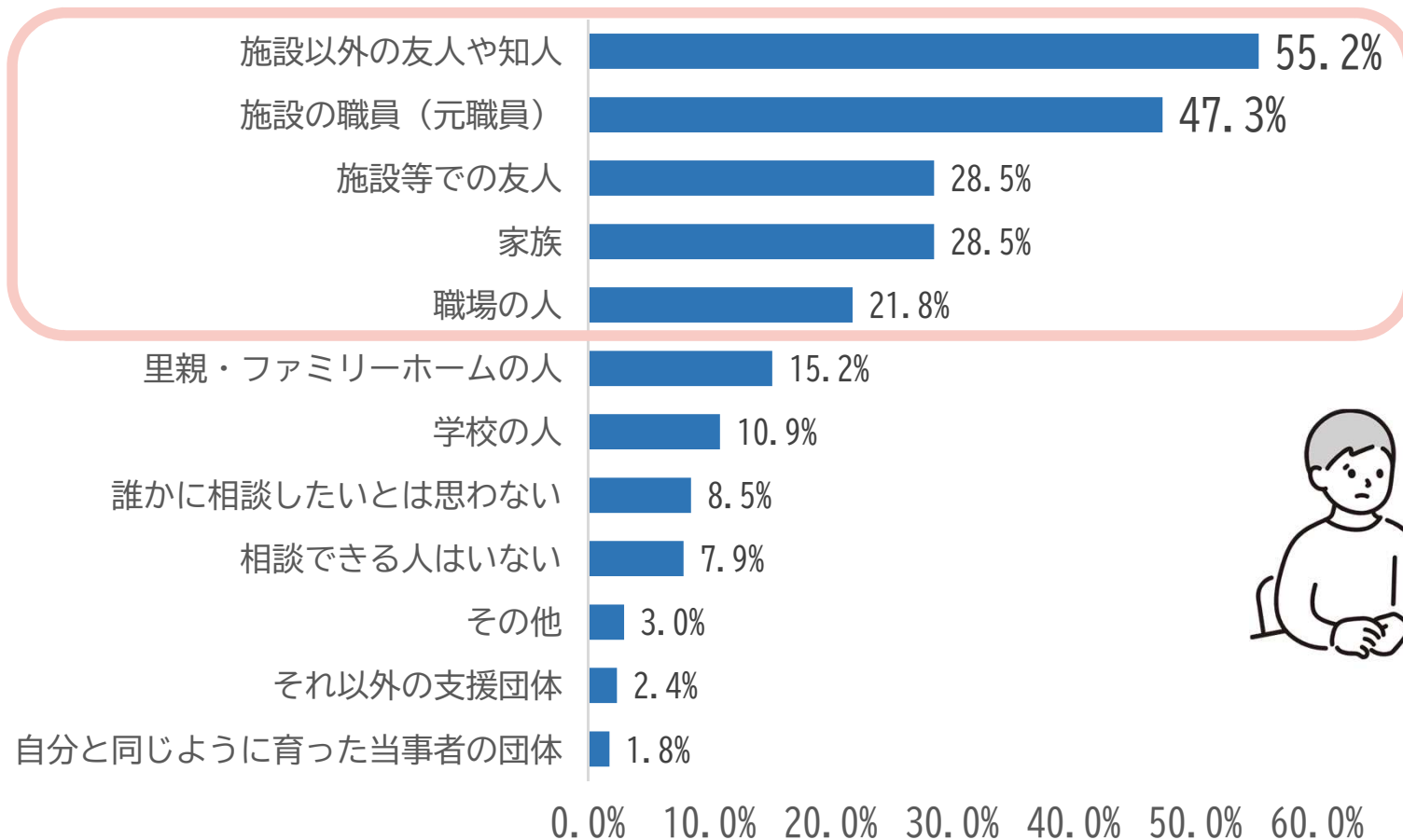
進学した後の状況 (64人)



⑨ 困ったときの相談相手は？

- ✓ 施設以外の友人や知人が一番多いですが、次に施設の職員（元職員）が多いです。
- ✓ 施設等での友人、家族、職場の人などにも相談できているようです。
- ✓ 一方で、相談したいとは思わない、相談できる人はいない先輩もいます。

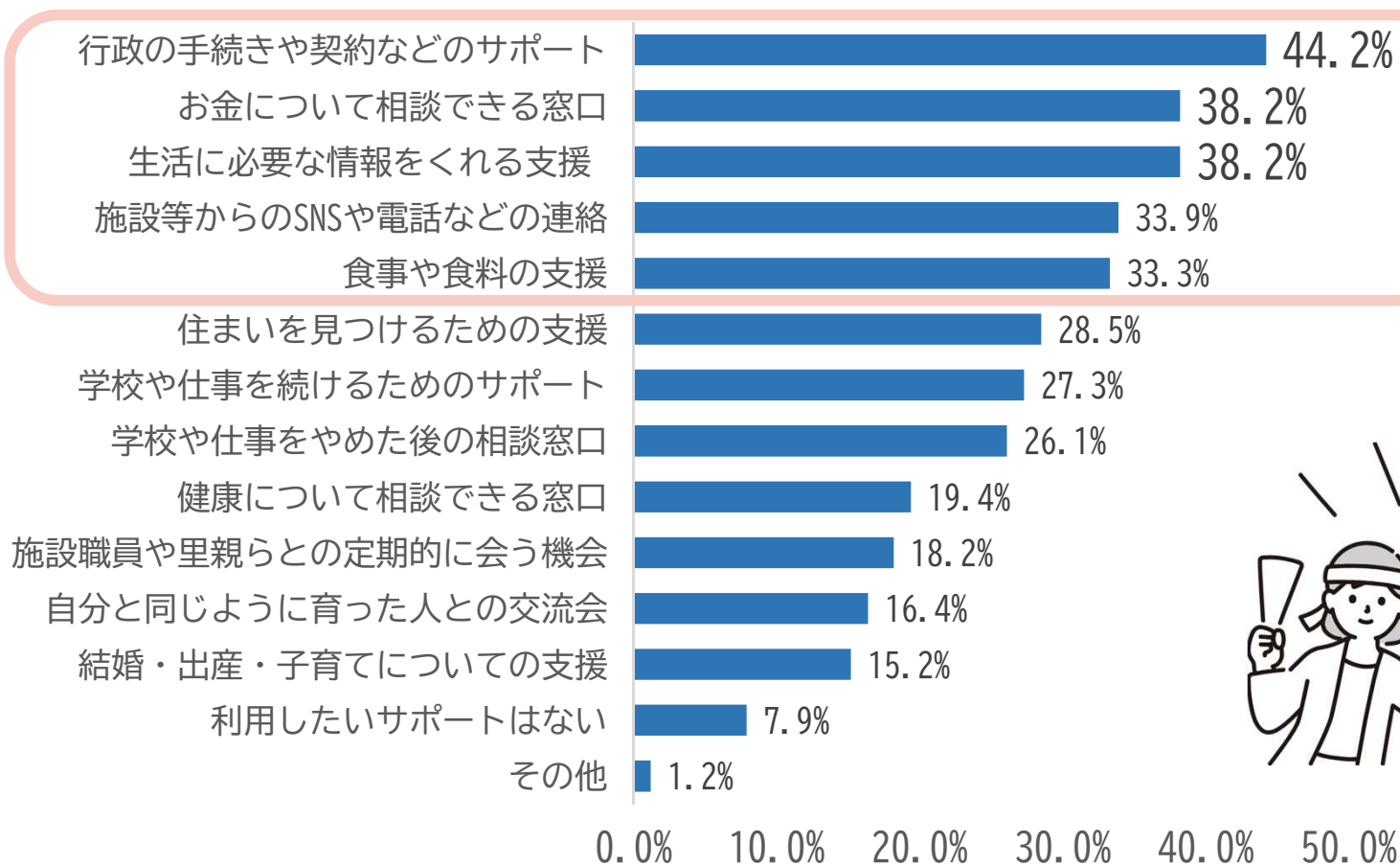
困ったときに相談できる人はいますか（165人）



⑩退所後に必要なサポートは？

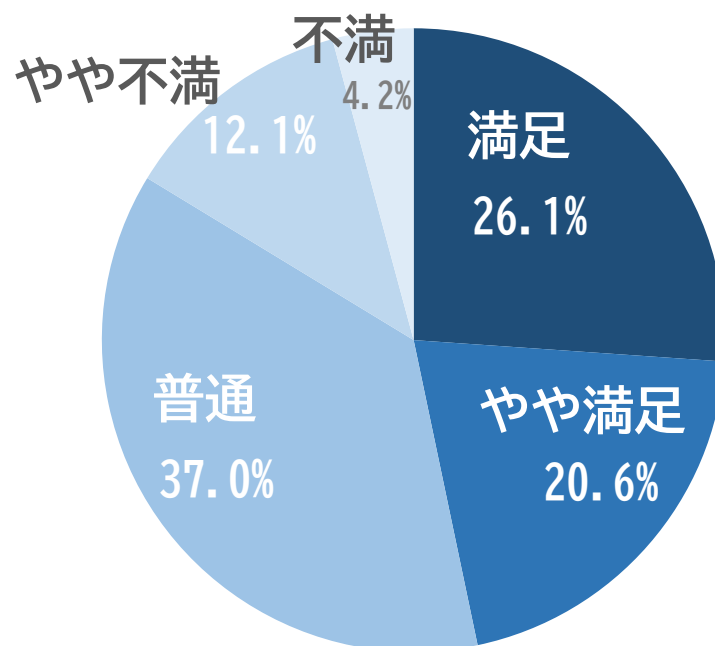
- ✓ 行政の手続きや契約のサポートが必要との声が一番多くなっています。
- ✓ 相談や情報提供してもらえる窓口や施設等からの連絡を求める声も多くなっています。

退所後に必要だと思うサポート（165人）



- ✓ いまの生活の満足度は半数が満足でしたが、不満も16%となっています。
- ✓ 生活や仕事が充実し満足の先輩がいる一方、金銭面や人間関係などで不満の先輩もいます。

いまの生活の満足度（165人）



不満の理由

- 今の仕事を続ける自信がない。
- 自己管理ができていない。
- お金の管理ができていない。
- 金銭面で生活が苦しい。
- 会社の寮での人間関係がうまくいっていない。
- 学校が楽しくない。

満足の理由

- 何不自由なく過ごせている。
- 施設での生活時から料理と家事を機会があったので、自炊や家事には困っていない。
- やりたいことがたくさんできる。
- 仕事を少しずつでも覚えられるようになった。
- 職場の同僚と仲良くできている。
- 行きたい大学に通えている。
- 奨学金を受けて生活に支障がない。



出たあとは大変だと思うし自分は独りだと思えるかもしれないけど、施設の職員や同じ場所で育った家族が絶対味方なので安心して自分の未来を切り開いていってください。

生きてれば何とかできるので、めいっぱいやりたいことをやって下さい。みなさんのこれからは可能性にあふれています。生い立ちに縛られず自由に生きられるよう応援しています！

無理に頑張らなくていいから、人様に迷惑かけへん程度に今を楽しめ！！自分を大好きになれ！！
もしも上手くいかなかった時は遠慮なく里親や育った施設の職員を頼ってください。

バイトや施設での生活や学校で学んだことは、必ず将来に役に立つので、自分のやりたい事したい事沢山見つけて巣立って行って欲しいです。

いろいろなサポートを紹介



- ✓ 先輩へのアンケートとインタビューの結果をみながら、施設の先生や先輩、支援に関わっている人と一緒に、どんなサポートが必要か次のとおり考えました。

入所中

退所前

退所後

I 将来の選択肢を広げる

2 将来の選択肢を広げる機会づくり

- ① 自立支援計画を一緒に考える
- ② 大学生との交流など進学を考えるサポート
- ③ 仕事体験など将来働くを考えるサポート

1 学びや好奇心を満たす環境づくり

- ① 小学生の学習塾など勉強のサポート
- ② 小学生のスポーツや芸術活動などのサポート
- ③ 高卒後の大学の再受験のサポート

II 一人ひとりの歩みに寄り添う

1 一人ひとりの歩みにあわせた支援体制づくり

- ① 施設を離れるタイミングを一緒に考える
- ② 自立を一緒に考える職員の力量アップ

2 必要な情報を届ける仕組みづくり

- ① 年齢に応じて知っておくべき情報の提供
- ② 金銭管理などを学ぶセミナーの開催

III つながりで安心を支える

1 支援をつなぐ拠点づくり

- ① 退所後に相談や交流ができる専門窓口
- ② 里親・里子専門の支援機関

2 支援のネットワークづくり

- ① 奨学金給付団体と施設と一緒にサポート
- ② 就職後安心して働ける企業のサポート
- ③ 支援機関のネットワークづくり

3 フォローアップの体制づくり

- ① 定期的に施設から連絡して様子を確認
- ② サポートが適切か定期的にチェック

ケアリーバーへの支援はこちら→



検討委員会のことはこちら→



1 将来の選択肢を広げる機会づくり



① 自立支援計画と一緒に考える

✓ 支援者だけでなく本人を中心に、早い段階からどんな大人になりたいのか一緒に考える機会をつくる。

② 大学生との交流など進学を考えるサポート

✓ 施設の先輩をはじめ大学生との交流のなかで、大学進学モデルを知り、将来を考える機会をつくる。

③ 仕事体験など将来働くを考えるサポート

✓ 企業や施設の先輩から直接しごとの話を聞くことや実際に仕事体験をすることで将来を考える機会をつくる。

2 学びや好奇心を満たす環境づくり

① 小学生の学習塾など勉強のサポート

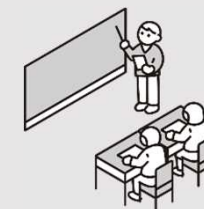
✓ 小学生のころから学習塾に通えるようにするなど、学びを支える環境を充実する。

② 小学生のスポーツや芸術活動などのサポート

✓ 小学生のころから興味や関心にあわせた習い事に通えるようにするなど、やりたいを叶える環境を充実する。

③ 高卒後の大学の再受験のサポート

✓ 高校を卒業した方でも、次の受験に向けて再度チャレンジできるよう環境を充実する。



1 一人ひとりの歩みにあわせた支援体制づくり

① 施設を離れるタイミングを一緒に考える

✓ 措置延長のこどもたちへの適切な情報提供とこどもの意見を聞きながら支援の継続を検討する。

② 必要な情報を届ける仕組みづくり

✓ 施設によって自立支援やアフターケアが異なることないように、施設間の情報共有、意見交換を行う。

2 必要な情報を届ける仕組みづくり



① 年齢に応じて知っておくべき情報の提供

✓ 年齢に応じて、いのちの大切さや金銭管理、情報の取扱いなど情報を伝えていく。

② 金銭管理などを学ぶセミナーの開催

✓ 施設等の先輩に失敗例も含めて具体的な事例をワークショップなどを通じて伝えるセミナーを開催する。

1 支援をつなぐ拠点づくり

① 退所後に相談や交流ができる専門窓口

- ✓ 退所後の相談支援や相互交流、関係機関とのつなぎとなる支援拠点を開設する。

② 里親・里子専門の支援機関

- ✓ 里親家庭で暮らす子どもたちの自立を支援する里親支援センターを開設する。



2 支援のネットワークづくり

① 奨学金給付団体と施設が一緒にサポート

- ✓ 民間財団等と連携し、子どもたちを経済的に支え、困ったときの支援体制もととのえておく。

② 就職後安心して働ける企業のサポート

- ✓ 社会的養護に理解のある企業を増やすため、認定・表彰制度の創設や企業に寄り添い支援者を配置する。

③ 支援機関のネットワークづくり

- ✓ 施設等が実施するイベントなどに関係機関の参加を呼びかけるなど、日頃から関係をつくっておく。



3 フォローアップの体制づくり

① 定期的に施設から連絡して様子を確認

✓ 毎年度、継続的に実態を把握し、困っていると声を上げることができ、支援につなげる。

② サポートが適切か定期的にチェック

✓ 支援機関、企業、当事者等が集まった推進体制をつくり、取組を改善・充実していく。

